

演題

「結核症の現状と 診断・治療の基本的事項」

座長

長沢 光章 先生 (国際医療福祉大学 成田保険医療学部 医学検査学科 教授)

演者

大野 秀明 先生 (埼玉医科大学総合医療センター 感染症科・感染制御科 診療部長)

日時

2017年 1月20日(金) 16:20~17:10

会場

第8会場 (長崎県医師会館2F 講堂)

〒852-8532 長崎市茂里町3-27
Tel:095-844-1111



本学会付設展示会にて
弊社製品を展示しております。
是非お立ち寄りください。



共催：第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 / 東ソー株式会社



東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

本社 / 〒105-8623 東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル
TEL 03-5427-5181 FAX 03-5427-5220

大阪支店 ☎ (06) 6209-1948 名古屋支店 ☎ (052) 211-5730
福岡支店 ☎ (092) 781-0481 仙台支店 ☎ (022) 266-2341
山口営業所 ☎ (0834) 63-9888
<http://www.diagnostics.jp.tosohbioscience.com/>

座長 **長沢 光章** 先生(国際医療福祉大学 成田保険医療学部 医学検査学科 教授)

演題 **「結核症の現状と診断・治療の基本的事項」**

演者 **大野 秀明** 先生(埼玉医科大学総合医療センター 感染症科・感染制御科 診療部長)

結核症はかつてわが国では国民病とよばれたほど猛威を振るったが、昭和20年代以降罹患率、死亡率とも順調に減少してきた。平成に入ってみても、平成12年(2000年)では罹患率(人口10万対)31.0であったが、平成27年(2015年)には14.4と、15年強の期間で半分以下にまで減少した。しかし、欧米の先進諸国と比較すると、日本の結核罹患率は依然高いレベルにあり、わが国は全世界的には結核の中蔓延国の水準にある。このような背景から、2020年の東京オリンピックをにらみ、官民挙げて低蔓延国化を目指し結核に対して徹底した対策をとることが示された(改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン)。

日本における年齢階級別の結核新登録患者数をみると、60歳以上が全体の70%程度、とくに80歳以上が約40%近くに上るなど、結核は高齢者の感染症という一面をもつが、一方、20歳代の患者では外国生まれの者の増加が認められることも注視すべきことである。また、大都市に多い傾向があるなど地域差も無視できない状況である。

結核症、なかでも肺結核は一般的な病態であるが、診断は疑わない限り辿り着くことは困難である。最近では、医師が結核を疑わなかったことからくる診断の遅れの問題も指摘されている。一方、結核の診断は従来の塗抹染色法、分離培養法を基本としながらも、現在では結核菌遺伝子診断法やインターフェロγ遊離試験などの補助的診断法の発展に支えられていることも事実である。近年ではPCR法のみならず、TRC法やLAMP法など多彩かつコンタミネーションの問題に取り組んだ遺伝子診断法の開発や、リファンピシン耐性菌をはじめ薬剤耐性菌の遺伝学的検出法も実用化されるなど、結核菌検出法の技術革新には目を見張るものがある。さらに、治療の面でもデラマニドなどの新規抗結核薬の登場やレボフロキサシンが抗結核薬として収載されるなど、この点でも新たな動向が認められた。このように結核の診断技術や化学療法は、ゆっくりではあるが確実な進歩を見せているが、その反面未だ時折集団感染事例や院内感染事例の報告も散見される。

本セミナーでは、わが国の結核の現状や診断、治療法の最近の話題も含めながら、基本的事項を整理するとともに、臨床面での問題点などについても考察する機会としたい。

第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会
企業展示会のご案内

会場

長崎ブリックホール 2F ホワイエ

会期 2017年 1月20日(金)
1月21日(土)
1月22日(日)

出展予定品

自動遺伝子検査装置 TRCReady-80